

No.22

ラ・ゴメラ島という名前を知っている日本人は、ほぼいないでしょう。

この島があるのは日本からは遠く離れたスペイン、カナリア諸島です。カナリア諸島はスペインの中でもずっと南の方に下った、アフリカ大陸のすぐ西に位置しています。この島では、不思議な言語「シルボ」(口笛を使った言語)が使用されています。ゴメラ島の口笛言語の起源はつきりとしていません。はじめてヨーロッパからの移民が15世紀に、ここに移り住んだ時には、現地の人(北アフリカから来たと思われる人々)がすでに口笛でコミュニケーションを取っていたのでした

アフリカ大陸では口笛を使った言語が確認されており、そこから口笛言語が持ち込まれたのではないかという説が有力です。

No.23

世界で約2500の言語が消滅の危機にさらされているとの調査結果を、ユネスコが発表した。日本では、アイヌ語が最も危険な状態にある言語と分類されたほか、八丈島や南西諸島の各方言も独立の言語と見なされ、計8言語がリストに加えられた。

調査は、全世界で6千前後あるといわれる言語を調査。538言語が最も危険な「極めて深刻」に分類され、このうち199語は話し手が10人以下だった。

日本では、アイヌ語について話し手が15人とされ、「極めて深刻」と評価された。財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は「アイヌ語を日常的に使う人はほとんどいない」としている。アイヌ語はロシアのサハリンや千島列島でも話されていたが、いずれもすでに消滅していた。

No.24

方言と言語の違い。言語学的に、同じ言語かどうかというと、まずお互いに通じるか通じないか、仮に通じないにしても地理的なつながりの中で連続的に変化しているかどうかを重視します。でも、国という概念が入ってくると、もう政治的な背景を抜きでは語れないんですね。

例えば、奄美、沖縄の場合は、言語的な定義からは、本土とは通じませんし、ちょうどトカラ列島を境にしてはつきりと切れている。言語学的には別言語と呼んだほうがいい。でも、奄美語、沖縄語といってしまうと、じゃあ、ここは日本じゃないのかというイメージを地元の人たちが持つてしまう。日本に復帰するかどうかとか、復帰してよかったのかとか議論している時には、そうは言えませんよ。でも、最近になって、やっと、奄美語、沖縄語と言ってもいいかなって思える雰囲気ができた